

# 光延由香利展

日時 2017年11月19日(日)～12月3日(日)  
10:00～16:30

会場 勝山文化往来館ひしお | 入場無料 | 水曜休館 |  
岡山県真庭市勝山162-3 tel.0867-44-5880  
HP: <http://hishioarts.com>  
E-mail: [info@hishioarts.com](mailto:info@hishioarts.com)



## 光延由香利プロフィール:

- 1980年 岡山県生まれ
- 2003年 岡山大学教育学部総合教育課程生涯教育コース 卒業
- 2005年 岡山大学大学院教育学研究科美術教育専攻 修了

## 個展

- 2012年 天プラ・セレクションvol.47 「光延由香利展～山が在ること～」(岡山県天神山文化プラザ/岡山市)
- 『2017年 「Gallery Shimada Emerging Artists Series No.2 光延由香利展」(ギャラリー島田deux / 神戸市)』

## グループ展

- 2017年 第3回総社芸術祭「こころのひだ きびの美術」(井山宝福寺/総社市)
- 2016年 第6回I氏賞受賞作家展 (岡山県立美術館/岡山市)

## 受賞歴

- 2013年 第6回岡山県新進美術家育成I氏賞 奨励賞
- 2011年 「第23回しんわ美術展」 グランプリ

数年来、山の絵を描く作家、と認識していた光延由香利が、岡山県立美術館での公開制作で、オーガンジーに刺繍している姿を見た時には驚いた。

存在感のある山の絵で評価を受けていた人が、思い切った方向転換をするものと印象深かった。実は光延の山の絵には、生動する自然の“気”が希薄のように感じられ、ずっと気になっていたのだ。翌年、宝福寺で手芸用の素材を用いて軽やかなボックスアートを発表した光延が、ギャラリー島田の個展でボックスに「集積」と「凝集」を込めているのを見た後、山の絵の本質が凝集にあったかと改めて気づかされた。

生の集積が、光延の作品を支えるものであるとすれば、外側にある自然を描くことより、日常で触れる素材を通して生み出すものの方が、より彼女にとってリアルなのではないか。作家にとってのリアルを凝縮したものが、ひしおの空間に置かれた時、どのようになるか。

きっとまた私たちを驚かせてくれるに違いない。

倉敷市立美術館 主任学芸員 佐々木千恵

作品名 (表面) 彼女の見た夢、(裏面上から) full of null. / snow box / covered house  
「covered house」photo by 柳生晋伸、他3点 photo by 加賀雅俊



## オープニングイベント(トーク&交流会)

日時 11月19日(日) 15:00～17:00  
会場 勝山文化往来館ひしお内



YUKARI MITSUNOBU



YOKO KANO

勝山文化往来館 ひしお  
10:00～17:00



## 『コイリングで作るブローチ』 講師: 糸工図

糸を無心にぐるぐるグルグル。  
それだけで無限の広がり。  
色の組合せも形も自由です。  
糸と一緒に戯れましょう。

日時: 2017年11月25日(土)  
①10時半～お昼頃まで  
②14時～15時半頃まで  
参加費: 500円(お茶付き)  
参加定員: 各回10人(先着順)

ご予約ください  
ひしお tel.0867-44-5880

糸工図(いとこうず)プロフィール  
加納一穂と杉由香里のユニット  
糸を使った作品を作っている  
ひのき草木染織工房で出会う  
2013年に結成  
加納一穂 1980年生まれ  
杉由香里 1982年生まれ  
ともに育児をしながら染織活動中

★出来上がったものは展示会期間中の展示にご協力をお願いいたします。展示終了後、お持ち帰りいただけます。